

授業改善推進プラン＜学年別＞

Ⅰ 年	課題分析	授業改善策
国語	【知識・技能の問題点】 ○毎週行っている漢字テストの達成率平均が70％前後であり、50％に達しない生徒がクラスの三分の一程度を占めている。個人差が大きい。 【思考・判断・表現の問題点】 ○表現に即して文章の内容を正しく読み取ること、自分の経験と照らし合わせて想像したり考えたりすることを苦手とする生徒が多い。	【反復練習の強化】 ○授業ノート、作文等において、漢字を使わず平仮名を多用している生徒への個別支援を粘り強く行い、漢字を使う習慣を身に付けさせる。家庭学習ノートを提出させ、確実に漢字練習を行うようにさせる。再テストを繰り返し行い、確実に覚えさせる。 【交流活動、話し合い活動の機会設定】 ○他者との交流を通して、自分の読み取りの間違いに気づいたり、考えを深めることの楽しさを実感したりできるよう、交流活動を計画的、系統的に設定する。
社会	【知識・技能】 ○1学期の定期検査では、知識・技能の達成率50%未満が全体の30%であった。全体の7割の生徒は、50%をクリアしている状況である。 【思考・判断・表現】 ○1学期の定期検査では、思考・判断・表現の達成率50%未満が全体の42%であった。全体の約6割の生徒が50%をクリアしている状況である。	【知識・技能の育成】 ○毎回の授業で本日の単元に入る前に前時の復習を質問形式で行い、知識の定着をはかる。単元の要点に関しては、板書内容をノートに書かせるとともに、必要な内容については、ノートにメモをとらせる。技能に関しては、資料やグラフの読み取りを行う。授業の最後に振りかえりを行う。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○毎回の授業で、生徒に考えさせる場面を作り、発表させる。 ○教科書の内容によっては、一つのテーマについて、各個人の意見を踏まえた上で、班ごとに話し合いの時間を設け、班としての意見を全
数学	【知識・技能】 ○知識は、身に付いていたものの、技能は、定着していない生徒がいる。 【思考力・判断力・表現力】 ○自分の考えを言語化し、学んだ知識を活かし、適切に判断、表現する力がまだ付いていない生徒がいる。	【技能の育成】 ○全体的な練習量が足りないので、家庭学習で毎日計算練習を行わせる。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○自力で考える時間を与え、自力で考えることが厳しい生徒には、見通しを示し、考えさせる。
理科	【知識・技能の問題点】 ○基礎的な内容を理解できていない生徒がいる。 ○計算に対して苦手意識があるため、質量パーセント濃度や密度の計算問題が解けない生徒がいる。 【思考力・判断力・表現力等の問題】 ○学習した知識を組み立てて表現することが苦手である。	【知識・技能の育成】 ○基礎的な学習内容が定着できるように、繰り返し指導を行う。 ○実験器具の正しい使い方を理解し、理科室の決まりを守り、友達と協力して安全に実験・観察を行うことができるようにする。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○実験結果や考察を文章で表現できるようにする。
英語	【知識・技能の問題点】 単語や文法ルールの定着が弱い。アンケートでは、日ごろからよく学習したという生徒が全体の35パーセント程度であり、多くの生徒はテスト前等での取り組みにとどまった。 【思考・判断・表現の問題点】 英語表現には意欲的だが、知識・技能の定着不足が表現の障害となっている。	【授業で既習事項に触れる】 各単元や各授業の頭には、教科書のストーリーに一通り触れる活動があるので、その中で既習事項を取り入れたティーチャートークや設問を取り入れる。 【家庭学習へつなげやすいテストデザインの工夫】 テストの試験範囲を示して終わるのではなく、どういう力を、どのような形式で測るのかを明確にし、自主学習をサポートする。また、定期検査以外に、小テストやパフォーマンステストなどを計画的に設定し、小さな努力を積み重ねられるようにする。
美術	【知識・技能の問題点】 ○絵の具の技法や筆の使い方を教えても定着しない生徒がいる。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○デザインがなかなか思いつかないため、制作の時間が足りない生徒が一部いる。	【知識・技能の改善点】 ○机間指導の際に粘り強く繰り返し指導をしていく。タブレットやワークシートで過去に指導した内容をすぐに振り替えられるようにする。 【思考力・判断力・表現力の改善点】 ○見本とともにタブレットや資料集、その他参考資料を用い、アイデアの幅が広がるよう工夫をする。
音楽	【楽曲の鑑賞力】 ○定期テストから、楽曲とその曲の背景、構成との結びつきを理解できている生徒が少ない。 【歌唱における合唱力・表現力】 ○全員で姿勢を正して歌ったり、周りのパートの声をよく聴いて歌うことが難しい。 ○表現について教員側から示しても部分的にしか実行できず、楽曲全体を通して表現することができる生徒が少ない	【視覚的・聴覚的なバランスの取れた教材】 ○聴覚的な教材に加えてデジタル教科書を活用した視覚的な教材を取り入れることによって、学びを深化する。 【繰り返しと対話的な学び】 ○授業の導入で歌う時のポイントを毎回確認するようにする。 ○グループでの話し合い活動を取り入れることで表現について各々が考える時間を確保し、具体的な表現方法について考えられるようにする。またタブレットを活用した意見交換を行う。

保健体育	【協働力の育成】 ○グループワークの設定が多い一方で、生徒間でのコミュニケーションや学びあいが少ないと感じている生徒が多いことがアンケート結果よりわかった。 【ICT機器の活用】 ○ICTの機器の活用状況が、他教科と比較すると低いと考えられ、生徒も上手く活用しきれていない。 【提出物の徹底】 ○提出物の提出状況を見ると、一部の生徒において、提出物を全く提出していないことが見受けられる。学習指導および生徒指導上の観点からは徹底させることが課題である。	【ICT機器の活用によるグループワーク】 ○主に体育授業において、ICT機器を活用し、生徒が自らPDCAサイクルを回すことができる学習活動を導入する。また、その際に、生徒同士がコミュニケーションを図り、学びあいができる環境を作れるように適宜、声掛けを行っていく。 【課題の提出状況などの見える化・働きかけの徹底】 ○提出物などの状況を見える化しつつ、必ず提出する、忘れた場合は報告するなどの行動を徹底できるように声掛けを行っていく。
技術	【材料と加工の技術】 ○問題の発見～課題の設定まで興味をもって取り組めるようにすることが課題である。また、理解度やものづくりの経験に差があり、工具（道具）の扱い等により作業進度にばらつきが出ている。	【材料と加工の技術】 ○実習時に個別指導の時間を多く取り、丁寧な指導をする。 実習作業に流れを作る。 ○スライド(授業で示したもの)やICT（動画など）をクラスルームに登録していつでも閲覧できるようにして、自ら学び理解しようとするよう指導をする。
家庭	【知識・技能の問題点】 ○家庭の仕事に興味をもち、日頃から家事に接するなどしていないとなかなか自分の事として捉えることが難しい。	【基礎的知識の定着】 視聴覚教材の活用や家庭での実践、授業における発問等を活用し、復習の機会を増やし、知識の定着を図る。
2年	課題分析	授業改善策
国語	【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○自らの意見をもつことはできているが、他者との交流を通して自分の意見や考えを再構築することが苦手である。 【情報の扱い方の問題点】 ○情報を適切に取捨選択することが苦手である。	【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○文章や相手の話から考えたこと、理解したことについて発表したり、話し合ったりする活動、また他者との交流を通して、自分の意見や考えがどのように変化したのかということを発表する機会を授業内で設ける。 【情報の扱い方に関する力の育成】 ○様々な資料から必要な情報を読み取る活動を計画的に行う。
社会	【基本的な知識・理解】 ○単元の核となる重要語句の理解や、その時間のねらいが曖昧になっている。 【思考・判断・表現】 ○上記の知識を基に自身の考えをもち、まとめ、表現する力は全体的に課題がある。	【授業のねらい・流れの明示と用語の確認】 ○その時間の授業のねらいと流れを明確に示すことで、その時間におさえるべきポイントを全員で確認してまとめにつなげる。 ○小單元ごとに小テストを行い、学習への意識を促すとともに用語の確認を行う。 【まとめる時間の設定】 ○おさえた用語を中心に、その時間に学習した内容を自身でまとめる時間を授業内で設定する。その際、どのようにまとめたらいいか例文を出すなどしてできる全ての生徒が取り組める状況を作る。
数学	【知識・技能の問題点】 ○知識・技能の定着に大きな差が見られる。 【思考・判断・表現の問題点】 ○自分自身の考えを他者に表現する力に課題が生徒が一定数いる。	【家庭学習の推進】 ○授業毎に振り返りを行い、不安と思われる箇所の復習を自宅で行う習慣を定着させる。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○分かっていることや問われていることを明確にし、課題解決への見通しを全体で共有する。その上で、自分の考えをもち、他者と伝え合う活動を通して、表現力を高めていく。
理科	【知識・技能の問題点】 ○一部の生徒において重要語句や元素記号や化学式などの基礎知識がほとんど見についていない生徒がいる。 【思考力・判断力・表現力等の問題点】 ○実験の結果や自らの考えを文章に書き表すことが苦手な生徒が多い。	【定期的な小テスト、補充教室の実施】 ○定期的に基礎知識に関する小テストを実施し目標点に達しなかった生徒に対して補充教室を実施し、知識の定着を図る。 【B&Aシート（振り返りシート）の活用】 ○単元、および節ごとの課題を設定し、自らの言葉で定期的に学習を振り返ることで、自分の考えを文章に書き表す練習をする。

英語	【知識・技能の問題点】 ○語彙や文法などの基礎的な知識の定着ができていない生徒が一定数いる。 【主体的に取り組む態度の問題点】 ○授業で学んだことを使って、自分の意見を述べたり考えを話したりすることが苦手な生徒がいる。	【視覚的教材の積極的な活用】 ○語彙や文法への理解を深めるために、イラストや写真、動画などの視覚的教材を積極的に活用する。 【生徒が主体的に意見や発表ができる雰囲気づくり】 ○知識・技能の定着度を高め、得た知識を活用して、主体的に学習に取り組めるような授業づくりを行う。
美術	【知識・技能の問題点】 ○彫刻刀の使い方が危険な生徒が一部いる。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○素材の強度や、自分の技量を越えた案を採用してしまうため、本番の作品に入った際に苦勞をする生徒がいる。	【知識・技能の改善点】 ○彫刻刀を扱う際は、授業の最初に全体に使い方の振り返りを行い、一部の生徒は真っ先に机間指導に向かう。 【思考力・判断力・表現力の改善点】 ○アイディアスケッチの段階で素材に触らせ、強度をイメージさせる。細かすぎる案は、省略や単純化した形の例をこちらから提示する。
音楽	【楽曲に対する理解】 ○作詞者・作曲者や楽曲の成り立ち、歌詞の意味など基本的な知識が定着している生徒が少ない。 【表現力】 ○鼻濁音や抑揚のつけ方の工夫、強弱などの表現を積極的に行う生徒が少ない。	【視覚的な教材・学びの横断化】 ○デジタルタブレットを活用した映像などの視覚的な教材を取り入れ、学びの深化を図る。 ○鑑賞では楽曲の鑑賞から入り知識に結び付けたり、歌唱ではほかの作品との比較を取り入れたりすることによって入れ込み型の学びを脱却する。 【グループ活動の増加】 ○表現についてグループで話す時間を設け、意見共有を行うことで能動的な学習を図る。
保健体育	【主体的に学ぶに向かう態度】 ○授業規律の確立が不十分な面がある。与えられた課題にきちんと取り組む姿勢や、真摯に物事に向き合う姿勢に欠ける生徒がある一定数いるのが現状である。 【知識・技能】 ○基礎的な体力に大きく欠ける生徒が見受けられるだけでなく、全体的に身体能力や基礎技能に欠ける。	【授業規律の確立】 ○ごまかしてやり過ごそうとか、その時が楽しければよいといった刹那的な感覚を改善すべく、運動のより深い楽しさを体感させる中で、物事にきちんと取り組むことや、ある一定の規律の中で行う必要性を身に付けさせる。 【基礎体力や基礎技能の向上】 ○毎回の授業において、補強運動を取り入れるとともに、基礎技能の向上を図る。
技術	【エネルギー変換の技術】 ○製作等の実習を通して、科学的な知識や考え方を理解させ、学習したことを生活に生かすこととしていくことが課題である。	【エネルギー変換の技術】 ○電気機器の保守点検など作業実習だけでなく、その裏付けとなる科学的な知識をくり返し伝えたり、ICT機器などを利用したりして自ら学ぼうとするよう指導をする。 ○製作実習等、遅れがちの生徒に対しては授業で使用したスライドなどをクラスルームに貼り付けていつでも閲覧できるようにしておく。
家庭	【知識・技能の問題点】 ○小学校で学んだ基礎が身に付いていない生徒は、実技面で手間取ったり遅れをとったりすることが多い。	【技能の定着】 ○基礎的な説明を心掛ける。また、動画など生徒がいつでも見返して実践できる環境を整える。加えて、実習時に個別の声掛けや指導をする。
3年	課題分析	授業改善策
国語	【知識・技能の問題点】 ○全国学力調査における知識・技能は、全国・都の平均と比べ高かった。一方、授業時に毎週行っている漢字テストの平均は50％強である。 【思考・判断・表現の問題点】 ○記述式の問題の正答率は、27.9であり、都の平均よりも低かった。適切な言葉づかいで考えを述べる力が不十分である。	【知識・技能の育成】 ○漢字テストの範囲を確認する際に、練習時間を確保する。また、学んだ知識が正しく使えるように、短作文を書く際にも丁寧に漢字を書けるようにさせる。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○自分の考えを書くときには、単語にならないよう、一文以上の短文でまとめさせる。また、2人組～4人組で意見を共有する時間を確保し、教え合いや学び合いの中で、使える語彙を増やす。

社会	【基礎的な知識】 ○定期テストでは約8割の生徒が基礎的な知識を定着させているが、模試等の結果から、過去の学習内容が定着していない生徒が9割以上に上る。単元内での短期的な知識の習得と、長期的な知識の定着に乖離があることを示唆している。過去の学習内容と関連付けながら学習を進めることで、知識の体系化を図る。 【思考・判断・表現】 ○観点別評価から、約半数の生徒が知識を活用し、適切に判断・表現する力に課題を抱えている。特に、資料から情報を読み取り、多面的・多角的に考察し表現する力が不十分である。この課題を克服するために、生徒が自ら課題を追究・解決するような探究的な学習活動を授業に取り入れていく。	【知識・技能の育成】 ○タブレット端末を活用した反復的な問題演習を導入し、知識の確実な定着を図ります。また、グループ活動で社会的現象を考察する機会を増やし、議論を通して知識や技能を習得する協働的な学びを推進します。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○生徒の興味を引く導入を工夫することで、授業の意欲を高める。タブレット端末を駆使した協働学習を充実させ、社会課題の把握や解決策の探究に主体的に取り組ませることで、「社会的な見方・考え方」を育む。
数学	【知識・技能の問題点】 ○全国学力調査における知識・技能は、1コマで扱った知識は、正答率が全国・都と比べ低かった。他の分野の正答率は、45%以上で定着してきていた。 【思考・判断・表現の問題点】 ○自分の考えを表現する力は、全国・都に比べ正答率は、高く、無回答率も低かった。ただ、関数の読み取り、記述は、学んだ知識を活かし、適切に判断、表現する力が不十分である。	【知識・技能の育成】 ○学んだ知識を正しく使えるように授業中に取り扱う。授業開始1分で、前時の振り返りをペアワークで行う。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○始めの2分で自力で考える、自力で考えることが厳しい生徒には、見通しを示し、考えさせる。次に、2人組または4人組で教え合い、学び合う時間をとり、定着を図る。関数に関しては、ICTの活用、繰り返し演習を重ねる。
理科	【知識・技能の問題点】 ○1・2学年の学習内容が定着していない。 【思考力・判断力・表現力等の問題】 ○全国学力調査では、記述式の問題の無回答率が全国平均よりもやや高かった。 ○学習した知識を組み立てて表現することが苦手である。	【知識・技能の育成】 ○1・2年生で学習したことを確認し、過去の学習内容と関連付けながら、学習を進めさせる。 【思考力・判断力・表現力の育成】 ○実験結果や考察を文章で表現できるようにする。 ○1・2年の復習や都立入試問題に取り組み、学んだ知識を活用して、図や文章を読み取る力を養う。
英語	【まとまりのある英文を書く】 ○テーマに合った、まとまりのある文を書く力を向上させる。 【英文を読んで、概要をつかむ】 ○長文を読んで、おおまかな内容が理解できるようにする。	【まとまりのある英文を書き、交流する機会の設定】 ○さまざまなテーマで、まとまった英文を書く時間を設定する。また互いの文を読み合い、よいところを取り入れるようにする。 【多くの英文を読む時間の設定】 ○たくさんの長文を読むことを通して、読解力を養う。
美術	【知識・技能の問題点】 ○丸刀、三角刀などの押して彫る彫刻刀に比べて、切り出し刀を使うのが苦手な生徒がいる。 【思考力・判断力・表現力の問題点】 ○彫刻を制作する際、アイディアスケッチの段階で立体的に案を考えられない生徒がいる。	【知識・技能の改善点】 ○切り出し刀の指導の時間は多めに取り、安全かつ力の伝わりやすい持ち方や刃の角度などを繰り返し伝える。 【思考力・判断力・表現力の改善点】 ○彫刻の参考作品を見せたり、断面図などを描いて示しながら、できるだけ立体的にイメージできるようにする。
音楽	【読譜能力】 ○類似したリズムや僅かな音程の違いを区別することが難しく、毎時言葉で説明するが定着に至っていない。 【表現力】 ○特に歌唱において強弱や楽曲の情景などを関連付けて表現できる生徒が少ない。	【基礎的なリズムや音楽用語の定着】 ○单元ごとに出てくる音楽用語やリズムを確認する時間を設定し、繰り返し行うことで確実に定着させる。 【対話的な学び】 ○教員の一方的な価値観を押し付けるのではなく、グループでの話し合い活動を取り入れることで表現について各々が考える時間を確保し、具体的な表現方法について考えられるようにする。またタブレットを活用した意見交換を行う。
保健体育	【知識・技能の課題点】 ○東京都は変わらず体力テストの値が、全国平均を下回っているので、引き続き基礎的な体力の向上が必要である。 ○自身の健康状態の把握や、生活習慣病などの理解、生活習慣の改善をしなければならない生徒が多い。	【知識・技能の育成】 ○引き続き授業内での運動量を30分以上確保する。 ○保健分野で学習した知識を、他の場面でも活かしていけるように指導する。

技術	【情報の技術】 ○プログル技術の活用を通して、実社会におけるものづくり〔双方向性のあるコンテンツ〕や、情報モラル、個人情報の保護、情報セキュリティなど技術と情報との関わりについて興味・関心をもたせることが課題である。	【情報の技術】 ○ICT機器等での資料・映像を活用し、ものづくりや情報について学習させる。プログル技術の活用で生活に身近な題材を取り上げ、ICT機器等を利用して自ら学ぼうとするよう指導する。 ○Web上のコンテンツ（NHKforschools）などを利用し、家庭での補充学習に役立てる。現在の技術の課題や問題点などについて考えを深めさせる。
家庭	【思考力・表現力の問題点 】 ○基礎的な知識を保有する生徒の中でも、自ら考え、それを表現する力に課題がある。	【思考力・判断力・表現力の育成 】 ○グループワークや発表、討論などの授業を増やし、表現力を養う機会を拡充する